

令和7年度 第2回横浜市障害者就労支援推進会議 次第

日時:令和8年2月 20日(金)

午前9:30 ~ 11:30

場所:横浜市役所 18階なみき9~12会議室

1 開会 (5分)

2 議題 (説明 10分、意見交換 90分)

(1) 「働きたい！わたしのシンポジウム」のリニューアルについて

資料1

(2) 意見交換

3 報告 (5分)

令和8年度 予算概要について

資料2

4 閉会 (5分)

令和7年度 横浜市障害者就労支援推進会議委員

(順不同・敬称略)

計13名

氏名	所属	分野	昨年度からの留任
シンボ サトコ 眞保 智子	法政大学 現代福祉学部・大学院人間社会研究科	学識経験者	★
ツルミ ノブコ 鶴見 伸子	横浜市心身障害児者を守る会連盟	障害者団体	★
タカオ トモノリ 高尾 智典	日本ピザハット株式会社	当事者	★
オガワ ナエコ 小川 菜江子	社会福祉法人電機神奈川福祉センター 横浜南部就労支援センター	就労支援	
カネコ ユキコ 金子 由紀子	社会福祉法人横浜SSJ本部事務局	就労支援	
サコンジュウ ユウ 左近充 優	株式会社LITALICOパートナーズ LITALICOワークス	就労支援	★
イケダ ミホコ 池田 美保子	社会福祉法人そよかぜの丘 港南中央地域活動ホームそよかぜの家地域支援室 港南区基幹相談支援センター	福祉	
サトウ アヤカ 佐藤 彩佳	公益財団法人横浜市総合保健医療財団 磯子区生活支援センター	福祉	
ウチヤマ フミコ 内山 史子	神奈川県立みどり支援学校 進路支援担当	教育	
カトウ キミコ 加藤 喜美子	横浜公共職業安定所 専門援助部門	労働	★
ゴトウ カズマ 後藤 和馬	医療法人社団自立会	医療	★
オザワ マコト 男澤 誠	株式会社スリーハイ	企業	★
フクダ ヒロユキ 福田 裕行	生活協同組合ユーコープ 人財開発部人財開発課	企業	★

事務局

カタヤマ ヒサヤ 片山 久也	横浜市健康福祉局障害福祉保健部長
イノ マサオ 飯野 正夫	横浜市健康福祉局障害福祉保健部障害自立支援課長
オノ サトル 大野 悟	横浜市健康福祉局障害福祉保健部障害自立支援課就労支援係長

CITY OF YOKOHAMA

資料1

議題：「働きたい！わたしのシンポジウム」の リニューアルについて

健康福祉局障害福祉保健部
障害自立支援課就労支援係

令和8年2月20日



横浜市

アジェンダ（流れ）

1. 「働きたい！わたしのシンポジウム」の概要
2. 令和7年度開催実績
3. 寄せられたお声
4. 本市として考える課題と背景（リニューアルの必要性）
5. 本市として考えるリニューアル案
6. 意見交換
1～5を踏まえてご意見をお聞かせください。

1. 「働きたい！わたしのシンポジウム」の概要

区分	内容	備考
目的	障害のある方が「働く」ことについて理解を深め、「働く」きっかけをつくる	・啓発対象は当事者、当事者家族、支援者、企業等の担当者を含む関係者
開始年度	平成16年度	・「支援費制度」施行（平成15年） ・「障害者自立支援法」施行（平成17年）
開催回数	20回	・1年に1回開催（注）
主な会場	横浜市健康福祉総合センター 公会堂 市役所等	・令和6年度から市役所開催
発表内容	就労している当事者や 企業等の担当者が登壇	・シンポジウム形式
来場者数	平均 300人	・最大 650人（平成29年度） ・最小 77人（令和4年度）
参加方法	会場・YouTube配信	・令和4年度（第17回）からハイブリッド開催 ・令和4年度：会場 77名、当日配信 336回 ・令和5年度：会場171名、当日配信 240回 + アーカイブ配信549回（計 789回） ・令和6年度：会場140名、当日配信 67回 + アーカイブ配信693回（計 760回） ・令和7年度：会場120名、当日配信 71回 + アーカイブ配信中（～3月31日）

（注）令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止

2. 令和7年度開催実績

■第20回「働きたい！わたしのシンポジウム」

日程：令和7年12月9日（火）午前11時～午後4時

（前年実績 令和6年9月6日（金）午前11時～午後4時）

会場：横浜市役所1階アトリウム、

市民協働推進センタースペースAB（前年実績 同）

参加者：会場参加 122人、YouTube当日配信 71回（前年実績：会場 140名、当日配信 67回）

内容：障害のある人の「働く」体験談を聞こう！（講演）、

手作りの良さを感じてみよう！（販売）、障害者就労啓発パネル（展示）、

横浜市障害者就労支援センター紹介・相談コーナー（相談）



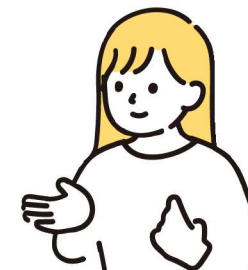
3. 寄せられたお声

≫ 発表内容

- ・働く障害者の方の生の声を聞いた
- ・就職活動を始めようと思うので参考になった
- ・登壇者の普段の業務の様子などの映像もあると、働いている様子をより実感しやすい
- ・1つの発表が長く感じた

≫ 登壇者の属性

- ・統合失調症やうつ病の方で仕事を頑張っている方の話も聞いてみたい
- ・成功している方のお話だけでなく、うまくいっていない方の生の声も聞いてみたい



3. 寄せられたお声

≫ 会場・運営

- ・会場が寒かった
- ・発表者の方が見えづらかった
- ・途中休憩があった方がよい

≫ 当事者同士の交流

- ・当事者の方へ直接質問や、話しができる時間があると気軽に話せていい
- ・当事者同士が交流できる場があるとうれしい（支援者の方より）

令和7年実施 第20回「働きたい！わたしのシンポジウム」アンケートより抜粋

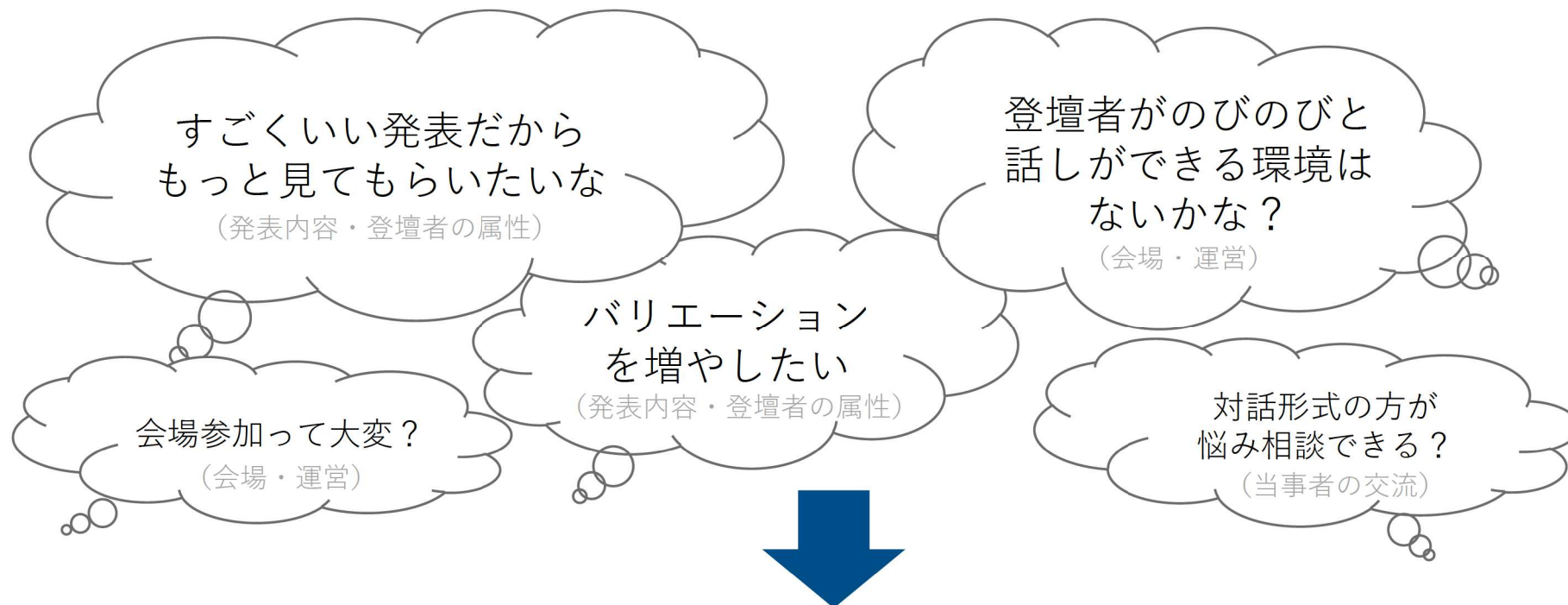


これまで講演会形式で20回開催してきたが、
開催形式をリニューアルしてみるのはいかがでしょうか？

4. 本市として考える課題と背景（リニューアルの必要性）

カテゴリー	課題	背景
発表内容・ 登壇者の属性	テーマに偏りがある	発表内容が登壇者の経験や関心に大きく依存しやすい 全体の構成が“集まった内容ベース”になり、イベントの狙いが薄まる
	発表時間が長い	司会や場面転換、質疑応答の時間を含むと一組あたり数十分必要 イベント全体の開催時間も長くなり、初めて参加する方にとっては情報過多になり、伝えたいことが残りにくい
	イベント効果の継続性がない	シンポジウムは登壇が1回限りで、内容が活用されにくい 一方で、アーカイブ動画の再生数は一定数あり需要が高い
会場・運営	会場環境の整備が難しい	啓発対象を一般市民まで広げる目的で会場を市役所に変更したが、一般市民の参加者は少なかった 会場環境に対する評価にも差が生じた
	登壇者の心理的ハードルが高い	登壇者の応募が少なく、開かれた会場形式やライブ配信は、登壇者にも負担があるのではないかと 参加者層を絞り、登壇希望者が安心してやすい環境を整える
当事者の交流	情報発信が一方方向でつながりを持ちにくい	登壇者が伝えたい情報のみの発信 交流は質疑応答に限られ、理解や気づきが深まりにくい

5. 本市として考えるリニューアル案



例えば、自分の都合に合わせて視聴できる動画形式や、よりクローズドな座談会形式はどうか？

5. 本市として考えるリニューアル案

形式	メリット	デメリット
動画	<ul style="list-style-type: none"> ・複数のテーマで製作できる ・時間や場所の制約がなく、視聴者の自由度が高い ・発表のアーカイブ動画に比べ、啓発用の動画は内容を凝縮できる ・継続性がある ・ライブと比べ登壇者の緊張感が緩和される ・当系の他の事業への展開が容易で汎用性・発展性が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心の薄い層には届かない ・情報提供が中心で、疑問解消や理解の深まりにつながりにくい
座談会	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者同士でより深く話す場を提供 ・つまずきを含む多様な経験を拾うことができる ・クローズドな環境で参加しやすい ・テーマ（新規就労・定着支援など）を絞って開催が可能 ・他自治体などにはなく、独自性がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・場所、時間の制約、1回あたりの上限人数がある ・ファシリテーション等、当日の運営に工夫が必要

明日をひらく都市

OPEN X PIONEER

YOKOHAMA

24 障害者の就労支援

本年度	前年度	増△減	
3億4,605万円	3億4,323万円	282万円	
本年度の財源内訳			
国	—	県	—
その他	1,222万円	市費	3億3,383万円

事業内容

新中期

1 障害者就労支援センター事業 3億613万円（3億613万円）

就労に関する相談支援、就職を希望する方への就職支援、働き続けるための定着支援等を行う障害者就労支援センターの運営について補助を行います。

・障害者就労支援センターの運営支援 9か所

新中期

2 障害者共同受注事業【基金】 2,517万円（2,437万円）

横浜市障害者共同受注センターの運営等により、企業等から障害者施設への発注促進や自主製品の販路拡大等、包括的なコーディネートを行います。

また、障害福祉事業所の受注促進のため、農作業受注促進モデル事業を行います。

3 障害者の就労啓発等

1,475万円（1,273万円）

障害者就労の理解を広げるため、「働きたい！わたしのシンポジウム」を実施します。障害福祉事業所が作成した商品販売の支援、本市の施設を活用した障害者の就労啓発等を行います。



【働きたい！わたしのシンポジウムの様子】